

令和6年度 事業報告及び決算

令和7年5月

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団

目 次

1	総 括	1
2	希望の郷	1 1
3	未 来	1 3
4	ワーク&デイ ラクリエ	1 5
5	ふらっとホーム	1 8
6	希望ホーム	1 9
7	相談支援事業所きぼう	2 0
8	児童デイ フラット未来	2 2
9	ふらっと Café（地域共生事業）	2 3
10	徳島県立障がい者交流プラザ（障がい者交流センター）	2 5
11	徳島県立障がい者交流プラザ（視聴覚障がい者支援センター）	2 7
12	徳島県立総合福祉センター	2 9
13	徳島県地域生活定着支援センター	3 1
14	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	3 3
15	ノーマライゼーション促進センター	3 6
16	徳島県パラスポーツ協会	3 8

令和6年度 事業報告書

1 総 括

令和6年度は、第2次経営中期計画（令和5年度～9年度）の2年目であり、中期計画に法人の最重要課題として掲げた「自律的人財の確保と育成」について、令和6年3月に制定した研修規程に基づき、新規採用職員の研修等体系的な研修制度をスタートさせた。

また、中期計画では、社会福祉法人の責務を果たし、将来にわたり選ばれる法人であり続け、「さらなる挑戦と飛躍のステージへ」向かうために、法人全体で「5つの挑戦」を柱として掲げ、各事業所は実施計画に基づいて取り組みを進めている。

【第2次中期計画の主な進捗状況】

挑戦1 多様なニーズに応える柔軟な福祉サービスへの挑戦

希望の郷では、利用者の望む暮らしの実現のために、地域移行を希望する利用者に対して地域生活の暮らしの体験利用を実施し、意思選択の機会提供に努めた。

挑戦2 地域における福祉課題の解決への挑戦

相談支援事業所きぼうでは、子ども食堂や子どもの居場所づくり開催の際、「困りごと相談窓口」として相談ブースを設置し、相談や情報提供を行った。

挑戦3 ソーシャルインクルージョンを実現するまちづくりへの挑戦

ふらっと KOKUFU では、子どもの居場所づくりと子ども食堂を毎月開催し、職業体験等で地元企業と連携して取り組んだ。

挑戦4 事業継続のための経営基盤強化への挑戦

人材の確保として、支援員及び専門職の計画的採用とともに、働きやすい職場づくりのため、社会保険労務士による外部相談窓口を設置した。

また、財務面では、施設整備等積立金の積立を行った。

挑戦5 感染症や自然災害に対応できるリスク管理体制づくりへの挑戦

避難訓練や避難所開設訓練、防災フェア等を開催し防災意識の向上を図った。

【各事業所の主な重点取組事項】

「希望の郷」では、施設グラウンドを新たに整備した「スポーツパーク」と「トレーニングジム」にて、多職種連携による健康増進専門的ケアを実施した。

また、大学連携により、芸術活動を活性化、創作活動に積極的に取り組み利用者の生活に彩りを添え豊かさの充実につながった。

「未来」では、女子のプライバシーの確保及び男子棟間の交流を図るため、北棟について、女子棟を1階から2階へ移動し、男子棟を2階から1階へ移動した。また、蛍光灯の製造及び輸入が2027年末までに禁止されることに対応するため、主に利用者の生活スペース（居室、浴室、食堂等）における蛍光灯をLEDに交換した。

ふらっと KOKUFU の「ワーク&デイ ラクリエ」の生活介護事業では、個々の個性を

活かした芸術文化活動に力を入れ、数々の公募展で受賞した他、「ラクリエきらきら展」、「アートデリバリープロジェクト」等のアート作品展やワークショップを開催した。また、アート活動専用の新たな活動場所開設に向けて準備を進め、土地建物を取得、1月より改修工事を開始した。

ラクリエの「就労継続支援B型事業」では、障がい者が繋ぐ地域の暮らしのほっとかない事業・国府支援学校と連携し自社栽培した作物をふくっとマルシェ（マルナカ国府店・フジグラン石井）において販売し、接客体験等を行った。

「ふらっと Café」では、令和6年度は、毎月「子どもの居場所づくり」・「こども食堂」を開催した。その他、貸館においては、国府地区の子ども会や研修会等で地域の方に多く利用してもらえた。国府町商工会青年部と連携し、国府中学校キャリアフェスに参加し、リハビリ専門職について中学2年生に実技と講義を行った。

「ふらっとホーム・希望ホーム」では、アンケート調査を実施し、一人暮らしを希望する利用者に対しては一人暮らしに必要な調理実習・金銭管理・居室の掃除等において支援員、世話人が連携を図りながら次のステップに踏み出せるよう支援を行った。

「相談支援事業所きぼう」では、研修や大学の学生を実習生として受け入れることを今年度も継続し、地域福祉人材の育成への貢献や受け入れ体制の整備やフィードバックの充実を図ることができた。

「児童デイフラット未来」では、徳島保健所と協働して歯科保健医療推進事業として、児童への歯磨き指導、職員には歯磨き支援の方法の講習を行い、支援の充実・向上を図った。また、ペアレント・トレーニングを実施し、保護者の方同士、子育てにおける悩みについて互いにアドバイスを交わし合い、保護者間交流を図った。

「障がい者交流センター」では、9月に交流プラザフェスタを開催し、特別支援学校生徒の演奏やプラザで活動している音楽サークルの演奏発表会、プラザ講座で作成した作品の展示など、日頃の成果を発表できる場を設けた。

「視聴覚障がい者支援センター」では、障がい者ICTサポートセンター開設1年が経過し、視覚・聴覚障がい者からのICT機器に関する相談件数が増加した。また、手話通訳者・要約筆記者の試験対策講座を実施し、手話通訳者6名、要約筆記者3名が試験に合格し、意思疎通支援者として県に登録された。

「徳島県立総合福祉センター」では、会議室の利用が好調であるとともに、徳島県と福祉団体との協働による、「生涯健康フェア」「防災フェスタ」及び、地域と子ども達の相互

交流を図る「アートセッション」を開催した。

「徳島県地域生活定着支援センター」では、県内関係機関との連携強化と相互のネットワークの構築によって、再犯防止を推進する「あわサポートネット」を県内3箇所で開催するとともに、「再犯防止講師派遣事業」を実施した。

「徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター」では、障がいのある人の作品展示やステージパフォーマンスだけでなく、ディスコやマルシェなど障がいのある人もない人も共に楽しむことができる、総合イベント「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭」を開催し、発表と交流の機会の拡充を図った。また、文化施設職員等を対象とし、聴覚に障害のある人が舞台を楽しむために必要な配慮について学ぶ鑑賞ワークショップを実施した。

「徳島県パラスポーツ協会」は、令和6年4月から名称を「徳島県パラスポーツ協会」へ変更し、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しむことができるパラスポーツ（＝もうひとつのスポーツ）の推進と障がいのある人もない人も誰もが主役となって活躍する「共生社会」の実現を目指し、事業に取り組んだ。

全国障害者スポーツ大会出場選考と記録会を兼ね、ノーマピック・スポーツ大会を開催し、参加者は7競技278人（前年度211人）であった。

また、10月には第23回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024）に選手団総勢65名を派遣した。選手は日頃の練習の成果を発揮し、多くのメダルを獲得することができた。

【法人全体にかかる取組】

「人材育成」については、令和6年度から新たに法人全体の新規採用職員を対象として、法人内事業所ツアー、イノベーション推進部職員等の講師による研修を行い、福祉についての基礎的理解とともに、新規採用職員同士のコミュニケーションを深めた。

「リクルート活動」については、就職ガイダンスに事業所から選出された職員が準備段階から協力して参加するとともに、大学訪問等により応募者確保に努めた。

「広報」では、各事業所で広報担当者を選任し、法人広報誌「かけはし」50号記念号のデザインを一新して発行するとともに、法人ホームページを改修した。

「大学連携」については、四国大学教授を講師に招き「生成AIの業務活用について」職員研修を行った。

「子育て支援」では、子育て支援策の充実について、令和7年1月に各事業所所属職員で構成するワーキングチームを設置して検討している。

「法人後見」では、他法人の視察、研修受講等を実施し検討を続けている。

「働きやすい職場環境づくり」については、ハラスメント意識調査を行い、法人の現状と

課題を見える化し、その結果をもとに研修を実施するとともに、「身近な相談窓口」の開設や社会保険労務士と法人顧問契約を結び相談窓口の拡充を図った。これに加え、メンタルヘルス研修やストレスチェック後の集団分析・職場環境改善を実施した。

法人内で理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が横断的に活動し、利用者の発育発達や疾病についてリハビリアプローチを実施した。また、予防リハビリとして、身体運動や嚥下摂食・発音発語等のプログラムを提供し、ひとりひとりの健康寿命を延ばす取り組みに努めた。

「コンプライアンスの推進」について、各事業所は、「6項目の推進指針」に基づき、業務内容に応じて年度の推進目標を設定して取り組み、その取組結果について評価を行うことによって、翌年度の推進目標を定めている。

「事務事業の効率化」については、各拠点で行っていた会計の一元化及び勤怠システムやクラウドシステムの導入を進め、令和7年4月から勤怠管理システムを本格稼働している。

「防災」については、各事業所で避難訓練や、避難所開設訓練を行うとともに、交流プラザの地域防災訓練や総合福祉センターの防災フェアにより、防災意識の向上を図った。

また、令和6年能登半島地震において、徳島県災害派遣福祉チーム（DWAT）の被災地支援に参加したラクリエの2名の社会福祉士及びJ R A T（日本災害リハビリテーション支援協会）に参加したフラット未来の言語聴覚士による「災害派遣活動報告会」を当事業団が令和6年6月に開催し、当法人及び徳島県知的障害者福祉協会加盟の他法人職員が参加して情報共有した。

「全国社会福祉事業団協議会の令和6年度中国・四国ブロック研修会」を令和6年11月28日に徳島市で開催した。研修内容は、少子高齢化により福祉サービスの担い手不足が懸念される2040年問題への対応として、「外国人材の活用」と「テクノロジーの活用」の2点とした。

2 決算状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：円）

区分	決 算 額	前年度決算額	増減	前年比
事業活動による収入 (1)	1,579,102,174	1,457,668,939	121,433,235	108.3%
施設整備等による収入 (2)	4,504,045	3,806,477	697,568	118.3%
その他の活動による収入(3)	28,210,006	42,538,881	△ 14,328,875	66.3%
収入合計 (1)+(2)+(3)	1,611,816,225	1,504,014,297	107,801,928	107.2%
事業活動による支出 (4)	1,388,295,921	1,302,795,948	85,499,973	106.6%
うち人件費支出	898,413,323	843,035,887	55,377,436	106.6%
事業活動収入に対する人件費比率	56.89%	57.83%		
施設整備等による支出 (5)	69,845,936	27,313,195	42,532,741	255.7%
その他の活動による支出(6)	118,103,228	81,598,172	36,505,056	144.7%
支出合計 (4)+(5)+(6)	1,576,245,085	1,411,707,315	164,537,770	111.7%
当期資金収支差額 (7)	35,571,140	92,306,982	△ 56,735,842	38.5%
(ア) 事業活動資金収支差額 (1)-(4)	190,806,253	154,872,991	35,933,262	123.2%
(イ) 施設整備等資金収支差額(2)-(5)	△ 65,341,891	△ 23,506,718	△ 41,835,173	
(ウ) その他の活動資金収支差額 (3)-(6)	△ 89,893,222	△ 39,059,291	△ 50,833,931	
前期末支払資金残高(8)	663,413,032	571,106,050	92,306,982	116.2%
当期末支払資金残高(7)+(8)	698,984,172	663,413,032	35,571,140	105.4%

事業活動による収入は、1,579,102千円（前年度1,457,669千円）で、前年より121,433千円増加し、前年比108.3%となっており、確実に収入の伸びを確保している。これは、希望の郷の介護給付費収入、未来の措置費収入、ふらっとKOKUFUの障害福祉サービス等事業収入、パラスポーツ協会における日本パラスポーツ協会からの委託事業収入の増加が主な要因となっている。

一方、事業活動による支出は、1,388,296千円（前年度1,302,796千円）となり、前年より85,500千円増加し、前年比106.6%となっているが、物価の高騰がある中で、各事業所において効率的な予算執行に努めている。

なお、人件費は、898,413千円（前年度843,036千円）で、職員数の増加等に伴う人件費の増により、前年対比106.6%となっており、事業活動収入に対する人件費支出の割合は56.89%で前年度より0.94ポイント低くなっている。

この結果、(ア) 事業活動資金収支差額については、190,806千円（前年度154,873千円）となり、前年より35,933千円増加し、前年比123.2%となっている。

次に、施設整備等の収入については、4,504千円（前年度3,806千円）であり、未来における設備資金借入金の元金償還に係る県からの補助金（2,439千円）などが主な内容である。

施設整備等による支出については、69,846千円（前年度27,313千円）であり、ふらっとアートスタジオ（仮称）の施設整備、パラスポーツ協会におけるスポーツ器具の整備、希望の郷のスポーツパークの整備等が主な内容である。

この結果、（イ）施設整備等資金収支差額は、△65,342千円となった。

また、その他の活動の収支については、収入28,210千円（前年度42,539千円）、支出118,103千円（前年度81,598千円）となり、（ウ）その他の活動資金収支差額は、△89,893千円となった。これは、希望の郷における将来の大規模な改修等に備え、72,563千円を施設整備等積立資産に積み立てたことにより、積立資産支出が増加したことによる。

以上のことから当期資金収支差額については、35,571千円となり、前期末支払資金残高に加えると、当期末支払資金残高は、698,984千円となった。

○ 計算書類に対する注記（法人全体用）

別冊 計算書類のとおり

○ 財産目録（令和7年3月31日現在）

別冊 計算書類のとおり

資金収支計算書総括表

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

(10拠点区分合計)

(単位: 円)

区 分	予算額 A	決算額 B	差異 A-B
事業活動による収入	1,569,528,000	1,579,102,174	△ 9,574,174
施設整備等による収入	4,219,000	4,504,045	△ 285,045
その他の活動による収入	28,198,000	28,210,006	△ 12,006
収入合計	1,601,945,000	1,611,816,225	△ 9,871,225
事業活動による支出	1,435,292,000	1,388,295,921	46,996,079
施設整備等による支出	69,874,000	69,845,936	28,064
その他の活動による支出	118,358,000	118,103,228	254,772
支出合計	1,623,524,000	1,576,245,085	47,278,915
当期資金収支差額	△ 21,579,000	35,571,140	△ 57,150,140
前期末支払資金残高	663,413,032	663,413,032	0
当期末支払資金残高	641,834,032	698,984,172	△ 57,150,140

事業活動計算書総括表

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

(10拠点区分合計)

(単位: 円)

区 分		当年度決算 A	前年度決算 B	増減 A-B
増減の部 サービス活動	サービス活動収益(1)	1,566,546,134	1,446,936,907	119,609,227
	サービス活動費用(2)	1,440,970,016	1,346,448,526	94,521,490
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	125,576,118	100,488,381	25,087,737
外増減の部 サービス活動	サービス活動外収益(4)	12,826,371	11,754,042	1,072,329
	サービス活動外費用(5)	3,065,935	1,953,264	1,112,671
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	9,760,436	9,800,778	△ 40,342
経常増減差額(7)=(3)+(6)		135,336,554	110,289,159	25,047,395
特別増減の部	特別収益(8)	13,054,269	4,172,000	8,882,269
	特別費用(9)	3,768,005	3,577,010	190,995
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	9,286,264	594,990	8,691,274
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		144,622,818	110,884,149	33,738,669
法人税、住民税及び事業税(12)		1,014,300	2,094,200	△ 1,079,900
当期活動増減差額(13)=(11)-(12)		143,608,518	108,789,949	34,818,569
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(14)	1,568,903,435	1,500,065,157	68,838,278
	当期末繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	1,712,511,953	1,608,855,106	103,656,847
	基本金取崩額(16)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(17)	78,112,700	36,560,410	41,552,290
	その他の積立金積立額(18)	162,801,741	76,512,081	86,289,660
	次期繰越活動増減差額(19)=(15)+(16)+(17)-(18)	1,627,822,912	1,568,903,435	58,919,477

法人単位貸借対照表

令和 7年 3月31日現在

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	773,804,302	766,258,400	7,545,902	流動負債	125,275,596	150,123,062	△24,847,466
現金預金	551,331,692	552,932,913	△1,601,221	事業未払金	55,090,761	66,517,171	△11,426,410
事業未収金	213,762,022	201,939,330	11,822,692	その他の未払金	10,331,823	10,613,019	△281,196
未収補助金	3,080,693	4,187,404	△1,106,711	1年以内返済予定設備資金借入金	9,408,000	10,003,000	△595,000
未収収益	27,788	18,233	9,555	1年以内返済予定リース債務	3,251,883	3,234,026	17,857
未収金	887,746	3,679,284	△2,791,538	預り金	537,577	7,059,517	△6,521,940
商品・製品	61,504	45,248	16,256	職員預り金	5,367,727	12,558,029	△7,190,302
立替金	2,265,666	958,078	1,307,588	前受金	379,850	250,280	129,570
前払金	125,292	575,240	△449,948	仮受金	27,788	33,504	△5,716
前払費用	2,261,899	1,922,670	339,229	賞与引当金	37,857,087	34,085,916	3,771,171
				未払法人税等	1,014,300	2,094,200	△1,079,900
				未払消費税等	2,008,800	3,674,400	△1,665,600
固定資産	2,527,297,732	2,464,820,861	62,476,871	固定負債	143,884,932	154,403,313	△10,518,381
基本財産	1,715,936,127	1,765,313,451	△49,377,324	設備資金借入金	95,422,000	104,830,000	△9,408,000
土地	379,732,083	375,019,053	4,713,030	リース債務	5,339,297	8,591,180	△3,251,883
建物	1,326,204,044	1,380,294,398	△54,090,354	退職給付引当金	43,123,635	40,982,133	2,141,502
定期預金	10,000,000	10,000,000	0	負債の部合計	269,160,528	304,526,375	△35,365,847
その他の固定資産	811,361,605	699,507,410	111,854,195	純資産の部			
建物	26,075,961	26,187,975	△112,014	基本金	10,000,000	10,000,000	0
構築物	65,224,794	64,921,480	303,314	第1号基本金	10,000,000	10,000,000	0
機械及び装置	7,474,842	8,605,958	△1,131,116	国庫補助金等特別積立金	811,627,942	849,847,840	△38,219,898
車輛運搬具	14,359,418	9,228,982	5,130,436	その他の積立金	582,490,652	497,801,611	84,689,041
器具及び備品	40,670,777	35,231,221	5,439,556	工賃変動積立金	716,917	316,917	400,000
建設仮勘定	13,980,000	0	13,980,000	設備等整備積立金	643,000		643,000
ソフトウェア	5,063,403	2,244,234	2,819,169	施設整備等積立金	295,265,826	222,580,231	72,685,595
無形リース資産	8,609,994	11,836,954	△3,226,960	設備拡充積立金	37,701,520	25,786,565	11,914,955
退職給付引当資産	43,123,635	40,982,133	2,141,502	障害者社会参加促進事業推進積立金	120,295,480	120,147,744	147,736
工賃変動積立資産	716,917	316,917	400,000	危機管理対応積立金	100,000,000	100,000,000	0
設備等整備積立資産	643,000		643,000	地域貢献事業積立金	27,867,909	28,970,154	△1,102,245
施設整備等積立資産	295,265,826	222,580,231	72,685,595	次期繰越活動増減差額	1,627,822,912	1,568,903,435	58,919,477
設備拡充積立資産	37,701,520	25,786,565	11,914,955	(うち当期活動増減差額)	143,608,518	108,789,949	34,818,569
障害者社会参加促進事業推進積立資産	120,295,480	120,147,744	147,736				
危機管理対応積立資産	100,000,000	100,000,000	0				
地域貢献事業積立資産	27,867,909	28,970,154	△1,102,245				

法人単位貸借対照表

令和 7年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部			純資産の部		
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末
差入保証金	94,000	94,000	0		
長期前払費用	4,007,949	2,211,112	1,796,837		
その他の固定資産	186,180	161,750	24,430		
資産の部合計	3,301,102,034	3,231,079,261	70,022,773	3,031,941,506	2,926,552,886
				3,301,102,034	3,231,079,261
				純資産の部合計	105,388,620
				負債及び純資産の部合計	70,022,773

3 設置経営及び管理運営施設等一覧

(令和7年3月31日現在)

区 分	施 設 種 別	施 設 名 等	定 員 (名)			現 員
			入所	通所	利用	
設置経営	障害者支援施設	希望の郷 (入所)	115	—	—	115
		希望の郷 (短期入所)	5	—	—	—
	障害児入所施設	未来 (入所)	60	—	—	51
		未来 (短期入所)	4	—	—	—
	児童発達支援事業 放課後等デイサービス事業	児童デイ フラット未来	—	15	—	—
	多機能型事業所	ワーク&デイ ラクリエ	—	60	—	56
	共同生活援助事業	ふらっとホーム	12	—	—	12
		ふらっとホーム (短期入所)	3	—	—	—
	共同生活援助事業	希望ホーム	13	—	—	13
管理運営	相談支援事業所	きぼう	—	—	—	—
	視聴覚障害者情報提供施設	徳島県立障がい者交流プラザ (視聴覚障がい者支援センター)	—	—	—	—
	—	徳島県立障がい者交流プラザ (障がい者交流センター)	—	—	227	—
そ の 他	—	徳島県立総合福祉センター	—	—	627	—
	—	徳島県地域生活定着支援センター	—	—	—	—
	—	徳島県障がい者芸術・文化活動支援 センター	—	—	—	—
	—	ノーマライゼーション促進センター	—	—	—	—
	—	徳島県パラスポーツ協会事務局	—	—	—	—
—	合 計	—	212	75	854	247

(注) ワーク&デイ ラクリエの通所定員・現員は、生活介護事業、就労移行及び就労継続支援 B 型の合計利用者数を記載していること。

4 監査の実施状況

(1) 公認会計士による指導監査

監査対象 令和6年度
 監査内容 税理士法人日本会援隊徳島事務所 公認会計士による監査を実施

5 職員の状況 (令和7年3月31日現在)

- (1) 職員総数 236名 (内訳：職員86名、専門職員(無期)29名、
 臨時職員38名、無期非常勤職員28名、非常勤職員等55名)
 前年度 230名 (内訳：職員80名、専門職員(無期)28名、
 臨時職員38名、無期非常勤職員27名、非常勤職員等57名)
- (2) 平均年齢 44.6才 (職員のみ)
 前年度 45.0才 (職員のみ)
- (3) 男女内訳 男子36名、女子50名 (職員のみ)
 前年度 男子37名、女子43名 (職員のみ)

希望の郷

希望の郷は、主に知的に障がい有する方が利用する障害者支援施設である。日中は、生活介護事業、自立訓練事業、夜間は施設入所支援事業、短期入所事業を実施している。施設では、利用者意思決定のもと日常生活と社会活動参加を促進、本人の望む暮らしの実現に向けてサービスを提供している。また、徳島市の地域生活支援拠点で緊急短期入所受け入れ・体験の場地域の体制づくりを担う施設となっている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

利用者の生活の質向上と社会参加を充実できるよう支援内容を工夫し施設運営を行った。収入面でも、自立支援費収入は安定しており、特に令和6年度障害福祉サービス等報酬改定で強度行動障がい者の手厚い対応、かつ、職員配置を充実し経営の安定化を図った。

① 入退所の状況

(単位：名)

令和6年4月1日現在 前年度継続利用者数	新規契約者数	契約解除者数	令和7年3月31日現在 利用者数
118	0	3	115

(令和7年3月31日)

② 事業別の利用状況

(単位：名)

	定員	現員		定員	延べ利用者数
生活介護	115	112	短期入所	5	6
施設入所支援	115	115			

2 重点取組事項

(1) 利用者本位のサービスの提供

利用者の意思を尊重した活動を積極的に行い、QOL向上と利用者の社会参加を推進した。サークル活動・外出支援・日帰り旅行等、イベントを開催し、法人職員、家族会の協力により充実した。

徳島大学「人と地域創生センター」と連携し、芸術活動を活性化、マスキングテープアート等の共同制作、文化の森芸術展「希望の桜」を出品した。芸術出品については、28点展示、式典参加41名と絵画や創作活動に積極的に取り組み、アーティスト育成と利用者の生活に彩りを添え、豊かさの充実につながった。

また、体力の維持増進・活動の活性化のために施設グラウンドを新たに整備した「スポーツパーク」と「トレーニングジム」にて、多職種連携による専門的ケアを実施し、心身ともに楽しくひとり一人のニーズに合わせた運動ができる環境整備及び健康増進に取り組んだ。

サービス提供の支援スキル向上において、昨年度に引き続き、強度行動障がい有する利用者の専門的アプローチのため外部コンサルテーションを受け、事例検討の支援振り返りや施設見学研修等職員のスキルアップを図った。その結果、強度行動障がい中核的人材担当者に職員1名が国より承認された。

利用者本位については、利用者の望む暮らし実現のために、地域移行を希望する利用者に対して地域生活の暮しの体験利用を実施し、意思選択の機会提供に努めた。

(2) 経営基盤の強化と人材育成

毎月の法人経営会議、施設運営会議において施設運営、経営状況を共有し年間事業計画、中期計画に基づき事業を進めた。施設内ではサービス管理責任者会議、各種委員会活動を計画的に実施した。課題発生した時は職員を参集し協議を進め課題解決に取り組んだ。

人材確保・育成では、SNS インスタグラムを活用し施設からの情報発信を行い、大学生の施設実習、就業体験も積極的に受け入れた。大学連携において新規採用職員が母校の職業説明会に参加し、学生と親近感のある求人啓発を実施し、連携大学の新卒生 2 名の採用にもつながった。これらは、人材確保の手段だけでなく、職員の業務振り返り等人材育成に大変有効であった。

(3) 防災の取り組みと地域貢献

対応指針をもとに BCP 及び感染症対策委員会を実施・研修・訓練を繰り返し行い、自然災害、感染症対応 BCP 計画は常に見直し改善を図った。

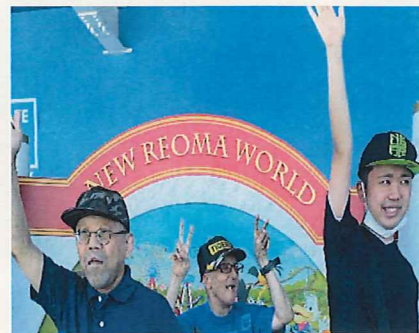
地域交流では地元自治会活動には参加し、地域の清掃活動「クリーンアップ事業」を企画し、利用者の達成感を得る・成功体験を積み重ねることができた。



▲スポーツパーク



▲クッキングサークル



▲日帰り旅行



▲大学連携マスキングテープアート



▲芸術出展



◀ BCP 非常食訓練

未 来

障害児入所施設未来は、知的障がい児を主たる対象とする定員60名の福祉型障害児入所施設として徳島市国府町において平成27年度から事業を行っている。また、障害児短期入所事業も行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

本年度の障害児入所施設は、入所相談や関係機関への呼びかけ等を行い、入所児童の増加に取り組んだ結果、13名の入所があり、月次平均利用者は53.6名(前年対比106.3%)に増加した。なお、年度末には、高等部卒業者の就職や18歳以上の利用者の成人サービスへの移行等による退所に伴い、51名(前年対比113.3%)となった。

また、障害児短期入所事業(自宅で介護する方が病気等の場合に、障害児を受け入れて食事や入浴等の支援を行う)は、保護者のレスパイト利用のニーズに応えるため、令和3年度から併設型4名に加え、空床型短期入所を開始したことにより、1,300日(前年対比88.6%)の利用実績となった。

① 障害児入所施設

(入所定員：60名)

区分 性別	令和6年3月31日 現在入所者数	入所者数	退所者数	令和7年3月31日 現在入所者数
男	33	9	5	37
女	12	4	2	14
合 計	45	13	7	51

利用者内訳：措置利用者29名、契約利用者22名(前年度 措置23名、契約22名)

② 障害児短期入所事業

(利用定員：4名/日及び本体施設の空床)

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	172	25	0	197
(2) 利用実績	1,300日(前年度実績1,467日)			

2 重点取組事項

(1) 利用者の確保

利用者の確保に向けて児童相談所との連携をはじめ、入所及び短期入所の利用希望のあった保護者に対する入所相談や関係機関への呼びかけを行い、利用者の確保に努めた。

(2) サービス向上への取組み

施設内に、虐待防止委員会、感染症対策強化委員会、安全防災委員会、給食委員会などの委員会を設置し、サービスの検証・改善、利用者満足度向上への取組みを行った。

短期入所事業については、従来からの併設型に加え、本体施設の空床を活用した空床型短期入所事業を行い、保護者のレスパイト利用等のニーズに応えた。

人材育成については、感染症拡大防止研修、虐待防止研修、腰痛予防研修などの職場内研修(OJT研修)を行うとともに、強度行動障がい支援者養成研修、サービス管理責任者等研修、メンタルヘルス研修などの職場外研修(OFF-JT研修)に参加させた。

(3) 北棟の男女入替え

女子のプライバシーの確保及び男子棟間の交流を図るため、北棟について、女子棟を1階から2階へ移動し、男子棟を2階から1階へ移動した。

(4) 各種行事の実施

入所児童の情緒面での成長や心健やかに過ごせるよう、親子日帰り旅行、ドッグセラピー、かき氷、バーベキュー、クリスマス会、お楽しみ外出などの各種行事を積極的に実施した。

(5) 地域貢献と地域連携

未来フェスティバルは、ふらっと KOKUFU と同時開催し、多くの地域の方々等に来園いただいた。

また、地元のボランティアグループ気延クラブの方々に来園いただき、児童と一緒にお餅つきを行い、交流を深めた。

さらに、清掃ボランティアや保育士の実習生の受入れを積極的に行うとともに、障害者支援施設等と連携し、オンラインでのe-スポーツイベントに参加した。

(6) その他

蛍光灯の製造及び輸入が2027年末までに禁止されることに対応するため、主に利用者の生活スペース（居室、浴室、食堂等）における蛍光灯をLEDに交換した。



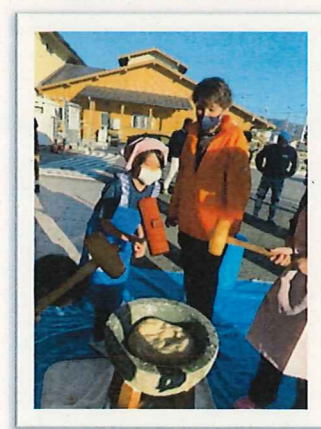
▲親子日帰り旅行



▲ドッグセラピー



▲クリスマス会



▲お餅つき

ワーク&デイ ラクリエ（生活介護）

ワーク&デイ ラクリエは、令和3年9月1日に希望の郷の通所機能（生活介護，就労移行及び就労継続支援B型）を移管し多機能型事業所としてスタートした。障がいのある方々が地域社会の一員として輝けるように、利用者の「ありのまま」を受け入れ、「生活人」としての「自己選択」と「自己決定」を尊重し、ライフステージやニーズに応じて、自立した地域生活を営むことができるように運営を行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

（1）進捗状況

ワーク&デイ ラクリエでは、地域とのつながりづくりを念頭に、地域生活拠点「ふらっと KOKUFU」の特色を活用し地域交流を行った。国府支援学校とは、清掃等の地域貢献活動、小学部生のアート作品展示、運動活動、実習受け入れ等で交流することができた。家族会とは秋祭りや日帰り旅行の合同実施以外にも「親なきあと」をテーマとした研修会を共同で行い、連携を深めることができた。また、令和7年度開設予定のふらっとアートスタジオ（仮）開設に向け準備を進め、5月に土地建物を購入、1月より整備工事が開始された。

事業別の利用状況（令和7年3月31日現在）

	定員	現員	平均利用者数	前年度
生活介護	30人	30人	24.3人	24.1人

2 取組事項

（1）多様なニーズに答える利用者サービスの向上

個々の個性を生かした芸術文化活動に力を入れ、第4回全国公募「Tシャツデザイン展」にて2名入賞。優秀賞受賞作品は、Tシャツ商品化された。9月には障がい者交流プラザにて「プラザギャラリー2024 ラクリエきらきら展」を開催し、利用者作品を多数展示、来場者に観ていただくことができた。10月には「徳島障がい者芸術祭エナジー2024」に出展し、エナジー賞、未来社会作品賞、かみなづき賞を受賞した。また、12月には中国四国巡回型アートプロジェクト「アートデリバリープロジェクト」をふらっと KOKUFU を会場に実施し、地域交流にも発展させることができた。

（2）利用者確保への取り組み

板野支援学校主催による施設見学会にて、生徒及び保護者の見学受け入れをした他、随時見学者等の受け入れを行った。その他、インスタグラム等での情報発信を行った。

3 地域貢献の取組

ダイバーシティの先導モデルとして機能強化を図っている「国府支援学校」と地域で清掃活動、学生のアート作品展示、モルック等の運動活動、就業体験の受入を行った。



第4回全国公募「Tシャツデザイン展」授賞式



アートデリバリープロジェクト
（メタバース野球体験）



プラザギャラリー
「ラクリエきらきら展」

ワーク&デイ ラクリエ（就労）

ワーク&デイ ラクリエは、令和3年9月1日に希望の郷の通所機能（生活介護、就労移行及び就労継続支援B型）を移管し多機能型事業所としてスタートした。障がいのある方々が地域社会の一員として輝けるように、利用者の「ありのまま」を受け入れ、「生活人」としての「自己選択」と「自己決定」を尊重し、ライフステージやニーズに応じて、自立した地域生活を営むことができるように運営を行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

（1）進捗状況

ワーク&デイ ラクリエでは、地域とのつながりづくりを念頭に、地域生活拠点「ふらっと KOKUFU」の特色を生かしノウフク連携を中心に地域貢献を行った。国府支援学校とは、令和4年度からの交流を強め地域に根付いてきた「ふくっとマルシェ」をマルナカ石井店で6月・11月、フジグラン石井では9月・2月と年4回行った。野菜知識や接客訓練等を株式会社フジの協力を得て行い、農業以外の職業観を学習した。

自社農場では栽培収穫した作物を地元高齢者施設・株式会社山のせに食材を卸し地産地消・作業収入増につなげることができた。また、希望者には徳島障害者職業センターでの職業適性検査、ハローワークでの求人票検索を体験し個々のモチベーションアップにつながるきっかけづくりを実施した。

事業別の利用状況（令和7年3月31日現在）

	定員	現員	平均利用者数	前年度
就労移行支援	6人	0人	0.2人	3.2人
就労継続支援B型	24人	26人	19.4人	16.4人

2 取組事項

（1）多様なニーズに答える利用者サービスの向上

（ア）就労移行支援事業

社会人として必要な一般常識、ハローワークでの求人票検索体験及びコミュニケーション能力など社会技能訓練など行い、希望する事業所へとつなげることができた。

（イ）就労継続支援B型事業

ノウフク連携では、自社栽培した作物をマルナカでの店頭販売・イベントでのマルシェに参加し接客体験・特定非営利活動法人とくしま障がい者就労支援協議会の協力を得てVRでの農業体験を実施し、体力に自信のない方等にも農業を感じるきっかけ作りを行った。また、地元農家より圃場での作業を受託し農業力強化を図ることができた。

（2）利用者確保への取り組み

板野支援学校の施設見学会にて、生徒及び保護者の見学受け入れをした他、随時見学者等の受け入れを行った他、インスタグラム等での情報発信を行った。

（3）ほっとかない事業

地域の高齢者に施設で収穫された作物等を販売し「買い物をする機会」「高齢者等の見守り」等を行った。参加利用者は、準備から接客までを行い就業体験を行った。

3 地域貢献の取組

ダイバーシティの先導モデルとして機能強化を図っている「国府支援学校」との地域貢献では就業体験の受入、農業体験及びマルナカ国府店・フジグラン石井での店頭販売等を協同して行い連携強化を行った。



外食行事(山かつ国府店)



ほっとかない事業



ジャガイモ選別作業



ふくっとマルシェ

ふらっとホーム

EAST（東男子棟）、WEST（西女子棟）それぞれの棟で共同生活を送りながら、地域社会の一員として自立した社会生活が送れるように努めた。夜間支援員の配置により、24 時間支援者が寄り添いながら支援体制の維持に努めた。また、短期入所利用の受け入れも積極的に行った。

1 進捗状況

<共同生活援助>

ふらっとホームでは、地域の中にある共同生活住居で生活を営む利用者に対し、24 時間体制で世話人が食事の提供、健康管理などを中心に支援し、支援員が日中に、通院支援、余暇支援、居室の整理整頓、就労支援などを含む日常生活上の必要な相談・支援等の提供を行い、夜間支援員においては夜間安心安全に生活が営まれるよう支援を行った。

気軽に相談できる体制を維持し、アンケート調査を実施し、将来一人暮らしを希望する利用者に対してはニーズの把握に努めた。

利用状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

共同生活援助	定員	現員	平均利用者数（令和 5 年度）
EAST（男子棟）	6 名	6 名	5.8 名（5.7 名）
WEST（女子棟）	6 名	6 名	5.7 名（5.3 名）

<短期入所>

新規利用契約、毎月固定利用等があり、食事、余暇等の充実が図られ、世話人、夜間支援員の寄り添った生活支援の確立により、安定した利用に繋がった。

利用状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

短期入所	延利用人数	短期入所	延利用人数
令和 5 年度	436 名	令和 6 年度	381 名

2 重点取組事項

（1）サービス提供体制の充実と向上

利用者への質の高いサービスの提供を目指し、職員の資質向上と利用者本位のサービス実現の為に、施設内外の各種研修及び会議等にて学びと協調を図りながら、職員の育成及びサービスの質の向上に努めた。

（2）地域移行支援の推進

将来的な地域移行に向けて個別の目標を設定し、課題を捻出しながら生活スキル等の向上を図り、また、外出時のサポートや就労支援を実施し、社会性が身に付けるよう支援を実施した。

（3）自然災害等に対応できる管理体制の強化

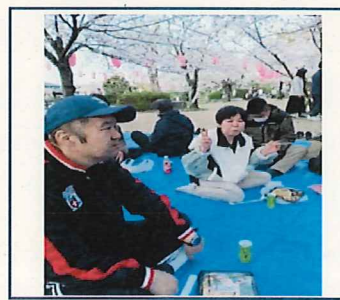
ふらっと KOKUFU での避難訓練への参加を促進するとともにふらっとホーム独自でも夜間を想定した避難訓練を実施し、それぞれが防災知識の向上が図られるように努めた。



<ぼっちゃ交流会>



<Tシャツアート>



<花 見>

希望ホーム

令和6年度は利用者12名でスタートしたが、7月には以前から一人暮らしを希望する利用者がサテライト住居に移動し、新しい生活を始め、7月末日に新たに1名入居したことにより、定員13名に到達することが出来た。一般就労9名、福祉的就労4名が地域生活の中心として就労に取り組んだ。

1 進捗状況

希望ホームでは、地域の中にある共同生活住居で生活を営む利用者に対し、世話人が朝夕の食事の提供、健康管理を中心に支援し、支援員が日中に通院支援、余暇支援、居室の整理整頓、就労支援等、日常生活上必要な相談・支援等においてスクラムを組みながら総合的なサービスの提供に努めた。

利用者の健康管理においては高齢化に伴い、支援の中でも重点的課題となっているが、協力医療機関等連携を図りながら、定期的な健診を実施するとともに、感染症対策においては、基本的予防対策を徹底するとともに迅速な対応に努め、予防を図った。

利用状況（令和7年3月31日現在）（前年度）

定員	現員	平均利用者数	定員	現員	平均利用者数
13名	13名	12.7名	13名	12名	12.0名

2 重点取組事項

(1) サービス提供体制の充実と向上

利用者への質の高いサービスの提供を目指し、職員の資質向上と利用者本位のサービス実現の為に、施設内外の各種研修及び会議等にて学びと協調を図りながら、職員の育成及びサービスの質の向上に努めた。

日頃からコミュニケーションが取りやすい環境を整え、利用者との良好な関係を構築し、相談には積極的に応じながら生活の質の向上に向けた支援を実施した。

定期職場訪問を実施し、就労先との連携強化に努め、障がい者への理解を深めながら雇用継続に繋がるよう働きかけを行った。

(2) 地域移行支援の推進

自立に向けた支援体制を確立し、利用者の健康管理、対人関係の調整、適切な金銭管理について職員間で連携を図り、本人が望む生活の実現に向けて安全に安心に日々の生活が送れるよう支援に努めた。

一人暮らしを希望する利用者に対してはサテライト住居にて一人暮らしに必要な調理実習・金銭管理・居室の掃除等において支援員、世話人が連携を図りながら次のステップに踏み出せるよう支援を行った。

(3) 自然災害等に対応できる管理体制の強化

避難確保計画・事業継続計画の見直しを実施するとともに年3回の地震・水害等を想定した避難訓練並びに実際に水消火器を使った消火訓練を実施した。また、訓練終了後にはそれぞれのテーマに沿った防災教育を実施し、防災知識・自己防災の向上を図った。



<合同日帰り旅行>



<消火訓練>



<ふらっとKOKUFU3周年>

相談支援事業所きぼう

相談支援事業所きぼうは、平成 25 年 4 月から一般・特定・障害児相談支援事業を開始し、徳島市からは「徳島市障害者相談支援事業」「徳島市地域生活支援拠点事業」「徳島市障害者虐待防止センター等業務」の 3 事業を受託している。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

今年度は 6 名全員が相談支援専門員としての体制で事業を開始した。

また、報酬改定の時期で障害のある方が地域で安心して生活できるよう相談支援体制の強化と質の向上を目指すために基本報酬の充実や各種加算が拡充され、各々取得できるよう体制の整備や研修参加等対応に尽力し、実績を上げることが出来た。

(2) 相談件数の状況(令和 7 年 3 月 31 日現在)

事業種別	サービス種別	R 6 年度	前年度
特定相談支援事業	サービス利用支援	420	453
	継続サービス利用支援	1,173	1,097
	計	1,593	1,550
障害児相談支援事業	障害児支援利用援助	182	195
	継続障害児支援利用援助	220	245
	計	402	440
一般相談支援事業	地域移行支援	0	0
	地域定着支援	0	0
	計	0	0
総 数		1,995	1,990

(3) 徳島市障害者相談支援事業の状況(令和 7 年 3 月 31 日現在)

ア 相談件数の状況

項目	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	計
障害者	2,222	0	2,563	2,560	28	135	26	7,534
障害児	81	26	490	54	461	0	684	1,796
計	2,303	26	3,053	2,614	489	135	710	9,330

イ 相談内容

内容	件数	内容	件数
福祉サービスの利用等	8,238	家計・経済	88
障害や病状の理解	24	生活技術	98
健康・医療	329	就労	248
不安の解消・情緒安定	167	社会参加・余暇活動	9
保育・教育	8	権利擁護	8
家族関係・人間関係	50	その他	63
計			9,330

(4) 徳島市地域生活支援拠点整備事業の状況(令和7年3月31日現在)

ア 登録者の概要 ※ () 内は重複障害の再掲

身体障害	知的障害	精神障害	その他	計
4 (4)	85 (9)	2 (1)	0 (0)	91 (14)

イ 相談・緊急時受入れ対応

相談		緊急時受入れ		
電話	来所	契約数	見学・体験	緊急時受入れ
24	1	73	11	1

(5) 徳島市障害者虐待防止センター等業務の状況(令和7年3月31日現在)

通報・届出等件数

通報・届出	21
その他(相談など)	12
合計	33

2 重点取組事項

(1) 質の高い相談支援の提供及び専門性の向上

今年度は徳島県で初めてとなる「高次脳機能障害支援者養成研修」が開催され、1名の相談支援専門員が参加し修了することができ、令和7年度より新たに加算を取得予定である。また、令和6年11月に開催された主任相談支援専門員養成研修にも1名の相談支援専門員が参加し修了することが出来た。その他、自己研鑽を図るため県内外で実施された研修にも多数参加した。

(2) 各委託事業の実施

徳島市から受託している「徳島市障害者相談支援事業」の一環として、相談支援従事者初任者・現任者研修の実習生の受け入れに合わせて、鳴門教育大学学校教育研究科人間教育専攻心理臨床コースの学生を実習生として受け入れることも継続しており、そのことにより地域福祉人材の育成に貢献していくとともに、受け入れ体制の整備やフィードバックの充実を図ることができた。

(3) その他

今年度は事業活動の広報としてInstagramに定期的に発信し、その内容がアウトリーチ活動時には地域の方々の参加促進等に繋がった。包括的相談ブースは「困りごと相談窓口」としてふらっと KOKUFU で開催された子ども食堂や子どもの居場所作りに定期的に設置し、複数件の相談を受け地域資源の情報提供等の対応を行った。

他相談支援事業所との連携のため、徳島市内の4事業所で独自に情報共有の場所として「Team 徳南 support」を立ち上げ、Zoomにて定期的なミーティングを開催し、関係機関との連携強化を図った。



実習生の受け入れの様子



困りごと相談窓口設置の様子



児童デイ フラット未来

児童デイフラット未来は、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の多機能型事業所として定員15名で「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟において事業を行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

児童デイフラット未来は、「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟において、新しく整備した遊具、訓練用具を使用して事業を実施している。

利用実績については、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の2事業を合わせて、4,110名（前年対比99.3%）となっており、作業療法士及び言語聴覚士による専門的療育メニューや療法的音楽活動等の療育プログラムにより、一人ひとりの状況に合わせた発達支援を行った。児童発達支援では、不登校児を受け入れ発達支援を行った。

① 放課後等デイサービス事業

（利用定員：児発、放デ合わせて15名／日）

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	51	5	9	47
(2) 利用実績	3,857名（前年度実績4,024名）			

② 児童発達支援事業

（利用定員：児発、放デ合わせて15名／日）

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	2	7	3	6
(2) 利用実績	253名（前年度実績111名）			

2 重点取組事項

(1) 関係機関との協働・連携事業、保護者支援の充実等

徳島保健所と協働して歯科保健医療推進事業として、児童への歯磨き指導、職員には歯磨き支援の方法の講習を行い、支援の充実・向上を図った。また、ペアレント・トレーニングを実施し、保護者の方同士、子育てにおける悩みについて互いにアドバイスを交わし合い、保護者間交流を図った。さらには、言語聴覚士がJ R A T（日本災害リハビリテーション支援協会）の被災地支援に参加し、福祉関係者に向けて災害派遣活動報告会を実施した。



▲ 歯科保健医療推進事業



▲ペアレント・トレーニング



▲災害派遣活動報告会

ふらっと Café（地域共生事業）

令和6年度では、子どもの居場所づくり推進事業として、「みんなであそぼうの日」・「子ども食堂」を各月実施。あそぼうの日は、他の団体と協力し開催できた。加えて子ども食堂では、地元企業の協力を得て職業体験等を実施した。あそぼうの日は、835名。子ども食堂は、639名の利用があった。

利用状況としては、イベント開催件数22件、延べ1,054名の子どもから大人までの地域住民の参加があった。貸館としては定期的な地域のサークル活動や子ども会、団体の研修会・会議等での活用があり、貸出件数85件、延べ1,129名の利用があった。また、放課後には、小中学生が防災パークで遊ぶ姿が以前より多くみられる。

（1）ふらっと Café の利用状況

		令和6年度	令和5年度
貸館関係	貸館 (件)	85	83
	利用人数 (名)	1,129	1,062
イベント関係	イベント等 (件)	22	31
	参加人数 (名)	1,054	4,426

2 重点取組事項

（1）地域のコミュニティづくり

徳島市・社会福祉協議会が進める協議体に参画し、国府地区での地域とのつながりを促進できた。

（2）地域福祉の担い手づくり

昨年度からの取組みを継続していく中で、近隣の中学生やボランティア団体がイベントや子ども食堂の運営に関わるようになり、地域福祉活動推進の場となっている。

（3）だれもが安心してくらせる地域づくり

近隣の中学校と連携して自主防災組織とともに防災に関する研修会と炊き出し等を行った。当施設でのかまどベンチを活用した。

（4）「徳島県版ユニバーサルカフェ」認定施設として取組の継続

高齢者や子ども、子育て中の人、外国人、障がいのある方など、誰もが訪れることができる交流拠点として取組みを継続し、次年度の更新にむけて取り組む。



中学生ボランティア活動の様子



子ども食堂ふらっと



防災学習・炊き出し訓練



徳島県立障がい者交流プラザ（障がい者交流センター）

障がい者交流センターにおいては、障がい者の自立と社会参加の促進に向けた活動と交流の拠点施設として、施設機能を最大限に活用し、地域の方々と共に障がい者の自立と社会参加の促進に取り組んだ。

また、昨年度に引き続き、館内入居団体等と協力し節電に取り組むことで光熱水費の抑制に努めた。

1 事業活動の概況と進捗状況

令和6年度の会議室等の貸館状況では、利用件数が前年度比で107%となり、利用収入実績は前年度比で84.8%となった。

施設運営については、プラザ講座や企画展の開催、交流プラザ最大のイベントである「交流プラザフェスタ」を通じて、スポーツ・芸術文化の活動支援や、とくしま障がい者就労支援協議会と連携し定期的にマルシェを開催することで、「発表の場」「活躍の場」の創出を行った。

(1) 会議室等利用実績 (注) 利用実日数 329日/年間

項 目		令和6年度実績	令和5年度実績	対前年比
有料施設	件数 (件)	2, 708	2, 525	107.2%
	人数 (人)	27, 610	26, 012	106.1%
ボランティア室 (無料)	件数 (件)	287	256	112.1%
	人数 (人)	2, 240	2, 028	110.5%
合 計	利用件数 (件)	2, 995	2, 781	107.7%
	利用人数 (人)	29, 850	28, 040	106.5%

(2) 利用収入実績

(単位：円)

令和6年度実績額	令和5年度実績額	対前年比
744, 700	878, 100	84.8%

(3) 実施事業の内容

事業内容	実 施 内 容 等
プラザ講座の開催	① 実施回数：66回 ② 参加人員：632名 ③ 講座内容：絵画 他8講座 ④ ボランティア：2名
夏休み宿題応援 プラザ小学生講座の開催	① 実施回数：8回 ② 参加人員：116人 ③ 講座内容：書道他7講座 ④ ボランティア：14人
第19回交流プラザフェスタの開催	① 日 時：令和6年9月15日 (日) ② 参加人員：延べ3, 500名 ③ 事業内容：2024秋の感謝祭 第19回交流プラザフェスタ

通報・消火・避難誘導訓練	① 実施回数：2回 ② 参加人員：45名（職員及び利用者）
障がい者の自立支援の推進	① 就労場所：障がい者交流プラザ全館 ② 就労者数：5名 ③ 事業内容：館内清掃業務等を通じて障がい者の自立を推進
障がい者作品のロビー展示等	① 実施回数：8回 ② 事業内容：パネル展、利用者演奏会、作品展等
館内連絡調整会議の開催	① 実施回数：3回 ② 出席者数：38名 ③ 会議の内容：プラザの運営に関する連絡協議等
地域防災講座の開催	① 実施回数：1回 ② 出席者数：37名 ② 事業内容：交流プラザ地域防災講座
ボランティア	① 実施回数：2回 ② 参加人員：24名 ③ 事業内容：夏休み宿題応援プラザ小学生講座、第19回交流プラザフェスタ
障がい者の学びコース	① 実施回数：18回 ② 受講者：505名 ③ 講座内容：スマホ入門 他18講座

2 重点取組事項

(1) 「発表の場」「活躍の場」の創出

交流プラザフェスタでは、特別支援学校生徒の演奏やプラザで活動している音楽サークルの演奏の発表会を開催、プラザ正面玄関ロビーでは、プラザ講座で作成した作品の展示など、日頃の成果を発表できる場を設けることができた。

(2) 積極的な情報発信等

館内デジタルサイネージを活用し、プラザ講座等の募集や館内イベント情報等を発信した。また、SNSを活用しプラザ企画展や講座等の情報の発信も行った。



(第19回プラザフェスタチラシ)



(交流プラザ地域防災講座)

徳島県立障がい者交流プラザ（視聴覚障がい者支援センター）

視覚や聴覚に障がいのある人の支援専門機関として、点訳・音訳指導員、歩行訓練士、手話通訳士等を配置し、視覚・聴覚障がい者が安心して地域生活を営むことができるよう、関係機関と連携・協働し、一人ひとりに寄り添った支援を目指して、視覚障がいリハビリテーション、情報・コミュニケーション支援事業等を実施した。

1 事業活動の概況と進捗状況

障がい者 ICT サポートセンター開設から1年が経過し、サポートセンターへの相談件数も増え、令和6年度は視覚・聴覚障がい者からの ICT 機器の紹介・利用に関する相談件数は、昨年度の3倍の実績となった。

生活訓練事業においては、スマホ等の機器訓練を希望される新規の方が増え、通所・訪問支援実績が昨年度より65件増えた。

点字図書館事業では、新しい図書としてマルチメディアデジの製作に着手した。製作に当たり、全国視覚障害者情報提供施設協会からの認定を受けるための課題審査に合格し、少しずつ製作を進めているところである。

聴覚障がい者への支援について、令和7年3月に徳島県手話言語条例が施行されたことから、手話通訳士・手話通訳者、要約筆記者の人材育成に努めるとともに、手話等についての理解・啓発に努めたい。

(1) 進捗状況

ア 点字図書館事業（視覚障がい者情報提供事業）

（単位：タイトル数）

項 目		令和6年度実績	令和5年度実績	備 考
種 別	区 分			
点 字 図 書	受 入	114	110	
	利 用	1,987(1,514)	2,950(2,472)	
音 声 図 書	受 入	109	84	
	利 用	28,327(24,518)	29,597(25,492)	
テキストデジ図書他	受 入	7	10	
	利 用	1,222(1,222)	1,435(1,432)	

※（ ）内はダウンロード数

イ 生活訓練事業（視覚障がいリハビリテーション）

（単位：延べ人数）

種 別	令和6年度実績	令和5年度実績	備 考
相 談	266	267	補装具・日常生活用具、同行援護、PC等情報機器操作上の問題等
通所・訪問支援	205	140	歩行訓練、点字訓練、情報機器訓練等
アウトリーチ支援	26	29	
遠隔支援	13	15	情報機器訓練等
いろいろカルチャー	301	305	料理・手芸、触って分かる博物館、音楽演奏等
計	811	756	

ウ 聴覚障がい者情報・コミュニケーション支援事業

(単位: 本数、件数)

種 別	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
字幕入りビデオ等の貸出	40	48
手話通訳者派遣	1,687	1,638
県知事定例・臨時記者会見への手話通訳士派遣	32	32
要約筆記者派遣	131	106

エ 障がい者 I C T 技術活用事業

(単位: 件数)

種別	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
相談	372	115

2 重点取組事項

(1) 障がい者 I C T 技術活用事業

① 相談業務

I C T 機器の紹介や貸出、利用に関する相談

相談件数 〈視覚〉 256 件 〈聴覚〉 116 件

② 福祉機器展の開催、機器展出展など

・第 6 回三好市福祉・ボランティアふれあい市民フェスタ

・視聴覚障がい者支援センター福祉機器展

徳島ロービジョンネットワークとの共催で、講演会と福祉機器展を県 J A 会館で開催

来場者 190 名

③ 〈視覚障がい者関係〉

便利で使いやすいフリーソフトの紹介や、登録 I C T サポーターの指導技術向上のためのスキルアップ研修を実施した

・パソコン用無料フリーソフト紹介講習会 参加者 6 名

・点字デバイス講習会 「ブレイルセンスシックスミニ」の操作など 参加者 6 名

・ I C T サポータースキルアップ研修 iPhone 指導内容の基礎 参加者 7 名

〈聴覚障がい者関係〉

県西部の聴覚障がい者会からの依頼を受け、スマホの操作等、相談に対応した

・出張スマホ相談会 つるぎ町農業構造改善センター 参加者 15 名

・初心者向けパソコン講座 参加者 2 名

・中級・上級者向けスマホ講座 参加者 5 名

(2) 災害対応人材育成事業

① 災害時におけるきこえない・きこえにくい人の支援連携協定に基づく研修

鳥取県中部聴覚障害者センターで開催された研修に参加し、災害発生時における組織体制、南海トラフ地震発生からのシミュレーション、鳥取県の安否確認について 22 名が学習した。

② 災害発生時における聴覚障がい者への配慮について、県内の防災士 5 名に対し、啓発研修を行った。

③ 災害時聴覚障がい者支援ネットワーク体制構築のための懇談会を開催

「徳島の未来を守る勉強会～徳島の防災を変える“減災”の気づき～」をテーマに、聴覚障がい者団体等関係者 21 名が参加し、講演後、ユレタ体験を行った。



福祉機器展



災害時支援連携のための懇談会

徳島県立総合福祉センター

1 施設概要

徳島県立総合福祉センターは、福祉関係者やボランティア団体等の活動拠点として、昭和58年に開館し、ホール、会議室等の活動の場の提供や各種福祉情報等の発信によって、社会福祉の発展に寄与している。

2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の会議室等の利用状況は、前年度同様の高い利用状況となったところである。

また、自主事業をはじめとする施設運営については、企画展や福祉講座の開催をはじめ、徳島県と福祉団体との協働による、「生涯健康フェア」や「防災フェア」を開催したところである。

また、地域との子ども達の相互交流を図る、「アートセッション」を開催したほか、建物の維持管理では、徳島県によるトイレ等改修工事が行われたところである。

(1) 会議室等の利用状況

年 度		令和6年度	令和5年度	増減率
項 目				
来 館 者 数		71,809	64,821	110.7%
会 議 室 ・ 設 備 (有 料)	件 数 (件)	6,431	5,910	108.8%
	人 員 (名)	69,761	62,119	112.3%
	利用収入 (円)	16,887,550	17,334,135	97.4%
ボ ラ ン テ ィ ア 連 絡 室 (無 料)	件 数 (件)	350	436	80.2%
	人 員 (名)	2,048	2,702	75.7%
	利用収入 (円)	—	—	—
合 計	件 数 (件)	6,781	6,346	106.8%
	人 員 (名)	71,809	64,821	110.7%
	利用収入 (円)	16,887,550	17,334,135	97.4%

(2) 自主事業の内容

事業項目	自主事業の内容
企 画 展	① 実施回数：6回 ② 事業内容：認知症パネル展、ちぎり絵展、災害ボランティアパネル展、Web公開講座など
福 祉 講 座	① 実施日：令和6年12月8日 ② 参加人員：30名 ③ 事業内容：ガーデニング講座
生涯健康フェア	① 実施日：令和6年10月19日 ② 参加人員：48名 ③ 事業内容：「身体の状態を知り、運動で認知症予防」をテーマに筋肉量測定、運動習慣、講演及びパネル展を開催

事業項目	自主事業の内容
防 災 フ ェ ア	① 実施日 : 令和6年9月28日 ② 参加人員 : 65名 ③ 事業内容 : 能登半島地震の災害派遣報告、南海トラフ巨大地震の備え、水循環型シャワーシステムの防災備品デモ等
アートセッション	① 実施日 : 令和6年11月24日 ② 参加人員 : 120名 ③ 事業内容 : 小学生による吹奏楽演奏、幼稚園児による絵画展を通して相互の交流を図ることを目的に開催



福祉講座（ガーデニング講座）



生涯健康フェア



アートセッション

3 重点取組事項

事業項目	重点取組の内容
館内連絡調整会議	① 実施回数 : 2回 ② 参加人員 : 年間62名 ③ 協議内容 : トイレ改修工事の概要、光熱水費の推移状況報告ほか
障がい者の就労支援事業	① 参加人員 : 年間206名 ② 事業内容 : 障害者支援施設の利用者が館内清掃業務に従事し、就労活動を通じて自立が図れるよう支援
館内設備等の整備と充実	① 実施内容 : 中庭の整備、会議室備品の更新、誘導灯の取替等
徳島県による改修工事	① 実施内容 : 3階・4階トイレ改修工事、団体事務室拡張工事

徳島県地域生活定着支援センター

1 業務概要

徳島県地域生活定着支援センターは、高齢又は障がいがあり福祉の支援を必要とする矯正施設退所者及び刑事司法手続き段階にある被疑者及び被告人等に、保護観察所、矯正施設、検察庁及び弁護士会等と連携し、対象者の地域生活定着に向けた支援を行っている。

2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の業務執行状況は、保護観察所からの依頼に基づくコーディネート業務（出口支援）及びフォローアップ業務は、前年度を下回る結果となったが、関係機関からの相談に応じる相談支援業務は、大幅な増加となった。

また、「高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援）」は、利用実績が少なかった一方で、「徳島県再犯防止総合相談窓口設置事業」は、生活苦や将来不安等に対する多くの相談があった。

さらに、広く県民に再犯防止への啓発活動を図る取り組みとして、職員が啓発活動を行う「再犯防止講師派遣事業」は、前年を上回る実績となったところである。

(1) 業務執行状況

① 地域生活定着支援業務（出口支援）

(単位：件)

年 度		令和6年度	令和5年度	増減率
項 目				
コーディネート業務	前年度継続分	4	6	—
	本年度新規分	9	9	—
	合 計	13	15	86.6%
フォローアップ業務	前年度継続分	5	5	—
	本年度新規分	8	9	—
	合 計	13	14	92.8%
相談支援業務	合 計	25	13	192.3%

② 高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援）

(単位：件)

年 度		令和6年度	令和5年度	増減率
項 目				
高齢・障害被疑者等支援業務		1	0	—

③ 徳島県再犯防止総合相談窓口設置事業（委託事業）

（単位：件）

項 目	年 度	相談件数		主な相談内容
		令和6年度	令和5年度	
徳島県再犯防止 総合相談窓口設置事業		38	34	生活苦、病気・住居・仕事への悩み、将来不安等

④ 再犯防止講師派遣事業（自主事業）

（単位：件）

項 目	年 度	派遣件数		主な派遣依頼先
		令和6年度	令和5年度	
再犯防止講師派遣事業		10	3	更生保護女性会南ブロック 阿南刑余者設立準備会ほか

3 重点取組事項

（1）関係機関との情報共有と相互連携

徳島保護観察所及び徳島刑務所との三者会議を毎月開催し、今後出所予定者で支援対象となる方の情報共有を行うとともに、関係機関との連携を図った。

（開催回数：12回、延参加者：114名）

（2）あわサポートネットの開催

県内関係機関との連携を強化し、相互のネットワークの構築によって、再犯防止を推進する「あわサポートネット」を徳島保護観察所及び更生保護団体との共催により県内3箇所（東部、西部及び南部）で開催した。

（開催日：令和6年10月、延参加者：178名）

（3）職員の支援スキル向上

全国地域生活定着支援センター等が主催する専門研修会等に参加し、専門性の向上と困難事例解決のための方策等、職員の支援スキル向上に取り組んだ。

（開催回数：25回、延参加者：30名）

（4）各種関係機関の情報発信

県内の関係機関が実施する再犯防止の取り組みについて、ホームページを通じて紹介し、誰ひとり取り残されることのない「地域共生社会」実現に向けての情報を発信した。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

芸術・文化は、障がいのある方々が「優れた才能」を発揮し、「感動」を創造できる大きな可能性を秘めた舞台であることから、センターでは、徳島県における障がい者芸術・文化活動支援の拠点として、「支える」「育てる」「繋がる」「発表する」「広める」の5本柱を基本に事業を進めている。

1 事業活動の状況と進捗状況

- (1) 令和5年度まで、障がい者アーティストの卵発掘展、みんなのはっぴょうかいを別々に開催していたが、令和6年度は、これらを統合し、障がいのある人の作品展示やステージパフォーマンスだけでなく、ディスコやマルシェなど障がいのある人もない人も共に楽しむことができる、総合イベント「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭」を開催し、発表と交流の機会の拡充を図った。
- (2) 新たな発表の機会として、2025年カレンダー用イラスト募集を行い、優秀賞作品12点で彩るカレンダーを作成し、企業団体等に配布した。これにより、障がいのある人の芸術文化活動を広く発信するとともに、障がい者や支援者の創作活動のモチベーション向上を図った。
- (3) Tシャツデザイン展では、優秀作品のアーティストとデザイナーとの協働による商品化にも引き続き取り組んだ。今後も、アーティストの自立に繋がる方策の一つとして、需要の裾野拡大に向け広報活動に努める。
- (4) 初めての試みとして、舞台鑑賞をテーマに取り上げ、文化施設職員等を対象とした鑑賞サポートワークショップを実施し、手話通訳や要約筆記による情報保障など障がい特性に応じた配慮や劇場内や受付で適切な対応ができる人材の育成に取り組んだ。

項 目	内 容		備 考
相談支援	作品の販売に関する相談等（電話、来所等）		相談件数 11 件
人材育成	ワークショップ	音楽療法体験	参加者数 30 名
		鑑賞ワークショップー聴覚障がい者が舞台を楽しむために	参加者数 12 名
		作品保管の方法	参加者数 9 名
		メディウム剥がし刷り版画	参加者数 9 名
		表現材料体験	参加者数 9 名
		知的財産権に関する法律相談	参加者数 4 組
ネットワークづくり	企画委員会の開催		1 回 R7.3.11（火）開催

発表等の機会の創出	篠原稔作品展	出品数 8 点
	第4回全国公募「Tシャツデザイン展」 優秀賞 5 点、入選 30 点	応募数 559 点
	「アトリエブルート作品展」協力：認定 NPO 法人 ブルート（愛知県）	入場者数 813 名
	「障がい者アーティストの卵」発掘展	出品者数 94 点 入場者数 813 名
	2025 年カレンダー用イラスト募集	作品数 176 点
	プラザギャラリー	企画展 4 回 貸出 7 回
	みんなのはっぴょうかい	出演者数 13 グループ 136 名
	プラザショップでの作品販売	作家数 2 名 出品数 6 点
	S p r i n g 展	作家数 8 名 出品数 18 点
情報収集	訪問調査 新たな作家・作品の発掘	訪問数 4 回
情報発信	ウェブサイト	投稿数 103 回
	SNS 等（フォロワー数等）	Instagram 492 人 Facebook 88 人 YouTube 38 人

2 重点取組事項

(1) 「みんなの創造フェスター2025とくしま障がい者芸術・文化祭」の開催

- ア 日時 令和7年2月12日（水）から2月16日（日）まで
- イ 会場 あわぎんホール1階ホール 他
- ウ 共催 公益財団法人 徳島県文化振興財団
- エ 協力 とくしま障がい者就労支援協議会
- オ 内容 美術部門「第11回障がい者アーティストの卵」発掘展
舞台芸術部門「みんなのはっぴょうかい」、ゲストパフォーマンス
県外アーティスト作品展（認定 NPO 法人ポパイ：名古屋市）
「みんなのディスコ」
エシカルマルシェ&キッチンカー
- カ 来場者 1, 420 名（5日間）

キ 成果 全ての内容について、「大変良い」、「良い」が60%から70%を占め、高評価を得た。

また、「県内でこうしたイベントがなかなか開催されないので、今後も継続的に開催してほしい」など継続を希望される意見が多かった。(アンケート結果より)

(2) 知的財産権に関する法律相談の実施

ア 日時 令和6年11月5日(火)、11月22日(金)

各日午後2時から3時30分まで

イ 会場 徳島県立障がい者交流プラザ 2階会議室

ウ 講師 弁護士 戸田順也 氏

エ 参加者 4組(個別相談)

オ 内容 「アート作品の管理等に関する契約書」雛型の提供等

カ 成果 障がいのある人により創造された作品の知的財産権や所有権等様々な権利に関する知識の普及と意識の向上を図ることができた。



「篠原 稔 作品展」
(県立障がい者交流プラザ)



第4回全国公募「Tシャツデザイン展」
(県立障がい者交流プラザ)



「みんなの創造フェスタ」
(あわぎんホール)



「みんなのはっぴようかい」
(あわぎんホール)

ノーマライゼーション促進センター

ノーマライゼーション促進センターは、障がい者の自立と社会参加を促進するための啓発広報活動やリフトバスを運行することで、日常生活の支援に努めた。

1 事業活動の状況と進捗状況

(1) 進捗状況

障がい者の自立と社会参加に向けた取り組みを行ってきた。

心の輪を広げる体験作文や障害者週間のポスターの募集、障がい者の集い県民大会の開催を通しての啓発広報、福祉バス運行等による社会見学やスポーツ大会への参加など日常生活の支援を行い福祉の向上に努めた。

また、徳島県障がい者福祉バス（リフト付きバス）の利用状況については、前年度の1.3倍となり、障がい者の社会参加の促進につながった。

ア 心の輪を広げる体験作文及び障害者週間ポスター募集

応募数 〔令和6年7月1日（月）～9月4日（水）〕

	小学校	中学校	高校・一般	計	各部門において、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考し令和6年12月7日（土）の第43回障害者の集い県民大会において表彰した。
作文	5編	11編	5編	21編 (前年度 73編)	
ポスター	4点	20点		24点 (前年度 18点)	

イ 障がい者による書道・写真の募集

応募数 〔令和6年8月9日（金）～9月9日（月）〕

書道部門：銀賞1人、銅賞1人 写真部門：銀賞1人

書道	45作品 (前年度 22点)	写真	19作品 (前年度 22点)	全国審査（全国障害者総合福祉センター）への応募を行った。
----	-------------------	----	-------------------	------------------------------

ウ 徳島県障がい者福祉バス（リフト付きバス）の利用状況

	県内	県外	計	徳島県身体障害者連合会、徳島県視覚障害者連合会、徳島県精神保健福祉協会 他
回数	15件 (前年度 11件)	19件 (前年度 15件)	34件 (前年度 26件)	
人数	310人 (前年度 255人)	418人 (前年度 370人)	728人 (前年度 625人)	

2 重点取組事項

(1) 障がい者福祉の理解促進を図る

今年度の障がい者の集い県民大会は、各表彰対象者付添者、関係団体、施設利用者及び職員等の参加とし開催した。また、オープニングでは、令和6年10月に開催された第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」ダイジェスト版の動画上映を行った。

(2) 障がい者の自立と社会参加を促進する

リフトバス運行事業については、障がい者の方々が、安心・安全に利用できるように、リフトバスの事業を実施した。



第43回県民大会



障害者週間のポスター最優秀賞
(小学生の部)



障害者週間のポスター最優秀賞
(中学生の部)

徳島県パラスポーツ協会

令和6年4月から名称を「徳島県パラスポーツ協会」へ変更し、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しむことができるパラスポーツ（＝もうひとつのスポーツ）の推進と障がいのある人もない人も誰もが主役となって活躍する「共生社会」の実現を目指し、事業に取り組んだ。

1 事業活動の状況と進捗状況

(1) 進捗状況

当協会は、平成28年7月に設立され、令和6年4月から名称を「徳島県パラスポーツ協会」へ変更し、関係団体とのネットワークを構築しながら、パラスポーツの振興、パラアスリートの発掘を行った。

パラスポーツの振興を図るため、パラスポーツ体験、さらに他法人との共催によるパラスポーツイベントを行った。

また、令和6年5月には、全国障害者スポーツ大会出場選考と記録会を兼ね、ノーマピック・スポーツ大会の開催（参加者：7競技278人（前年度211人））、10月には第23回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024）選手団派遣（個人競技7競技22人、聴覚バレー7人、コーチ・役員36人 計65人）を派遣した。

特別事業として、令和6年9月28日に、未来のパラリンピックを目指すアスリートを発掘し、競技団体の次世代育成・強化に導くことを目的に「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STARプロジェクト）」四国ブロックを徳島県で開催した。

(2) 実施事業の内容

事業目的	事業内容	実施内容等
障がい者スポーツの交流支援	徳島県南部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和6年6月16日（日） 2 場所：阿南市那賀川スポーツセンター 3 参加人数：選手27人、審判等7人 計34人
	徳島県中部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和6年8月4日（日） 午前の部・午後の部 2 場所：徳島県立障がい者交流プラザ体育館 3 参加人数：選手42人、審判等15人 計57人
	徳島県西部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和6年6月23日（日） 2 場所：池田総合体育館 3 参加人数：選手25人、審判等10人 計35人
	徳島県ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和6年9月29日（日） 2 場所：徳島県立障がい者交流プラザ体育館 3 参加人数：選手30人、審判等8人、計38人
	特別支援学校対抗ボッチャ大会	1 開催日：令和6年11月27日（水） 2 会場：日本フネン市民プラザアリーナ 3 参加人数：ボッチャ27人、ターゲットボッチャ（オンライン）30人

指導者の育成	ネットワーク・ラインアップ事業	1 目的：人材の育成・パラスポーツの普及・促進につなげるため、「パラスポーツを支える人材」のネットワークの構築を行う。 2 内容： ① ボッチャ審判のテクニックセミナー ② パラカヌー体験会 in NAKA 3 参加人数：14人
	とくしまパラスポーツ人材バンク設置事業	1 登録者数：107人（前年度 88人） 2 派遣件数：195件（前年度 205件）
パラスポーツの普及、促進	パラスポーツ交流支援事業（2025 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル・インクルーシブスポーツフェスタ）	1 目的：パラスポーツの魅力発信、共生社会の実現を目指して、パラスポーツ体験、パラアスリート講演会、パネルディスカッション等イベントを開催 2 開催日：令和7年1月26日（日）、2月24日（日） 3 開催場所：徳島県立障がい者交流プラザ 4 参加人数：450人（前年度（1日） 155人）
	地域におけるパラスポーツ実施環境整備事業	1 目的：パラスポーツの振興に資する競技用具の整備を必要とする障がい者スポーツ団体に補助金を交付 2 補助団体：8団体（2,000,392円） 3 補助内容：フアーカーリング、ラダーゲッター等への補助。
	出張スポーツ教室	1 開催日：令和6年6月～令和7年2月 2 回数：107回（1,705人）（前年度184回（1,208人））
	オンラインスポーツ教室	1 開催日：令和6年6月～令和7年2月 2 回数：16回（525人）前年度23回（1,073人）
	日本パラスポーツ協会障がい者スポーツ振興事業（障害者スポーツ実施環境の構築支援事業）	1 目的：障がいのある方が主体的に運動・スポーツに取り組めるよう、身近な場所で気軽に運動・スポーツが実施できる環境整備を行う。 2 整備用具：スタート発信装置、トレーニング機器、競技用車等
	徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動部活動等の地域連携事業）	1 目的：特別支援学校運動部活動と、地域の障がい者スポーツクラブや競技団体、パラスポーツ指導員等との地域連携事業を実施し、運動部活動地域移行に向けた基盤作りを行う。 2 内容：①パラスポーツ指導者派遣事業②デフ卓球創設事業③アスリートの技術指導による地域スポーツ促進事業
パラアスリートの発掘・育成	パラアスリート卵発掘！ジュニア・アカデミー事業	1 目的：運動適正テストやスポーツ体験プログラムを実施し、スポーツの楽しさの実感や身体能力・競技力の向上を図る。 2 開催日：令和6年1月から2月の間、3回 3 開催場所：国府支援学校体育館 4 内容：徳島県立国府支援学校 中学部、高等部生徒を対象に身体能力測定やスポーツ体験実施。サッカー、ソフトボール、バスケットボール競技団体と連携し体験会を実施した。 5 参加人数：36人

2 重点取組事項

- (1) 令和4年度に、公益財団法人日本パラスポーツ協会の委託事業を受託し、法人内施設の「希望の郷」フリースペースにトレーニングセンターを整備した。今年度は、障害者スポーツ実施環境の構築支援事業により、トレーニング機器が更に充実・整備された。トレーニングセンターを施設利用者だけでなく、保護者、アスリートに貸出を行った。
- (2) パラスポーツ活動の実施において、大会規模やルールを工夫し、「リアル」と「オンライン」を組み合わせたハイブリッドで、第4回特別支援学校対抗ボッチャ大会を開催した。
- (3) 他団体との連携事業として、①徳島新聞社会文化事業団と共催し、徳島ニュースポフェス「エイブル2024」の開催、②バリフリBOX∞のスタッフとして協力を行った。



ノーマピックススポーツ大会



第23回全国障害者スポーツ大会



2025 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル